

山崎達也教授（大学院自然科学研究科）が Best Presentation Award を受賞しました

1月26日、27日にオーストリアで国際会議 ICPA2017（The 19th International Conference on Precision Agriculture）が開催され、大学院自然科学研究科の山崎達也教授の研究発表が Best Presentation Award を受賞しました。

Best Presentation Award は、ICPA2017 の各セッションの座長が担当する個々の発表を評価し、その後の全体の審査が行われ、最終的に決定されたものです。本発表は、農業に情報通信技術を導入し、農作業の負担を軽減するとともに農作物の品質向上を目指す目的で、洋ナシ圃場における環境センシング並びに果実外観品質劣化のモデル化を行ったものです。新潟県三条市にある洋ナシ生産者の協力を得て、実際のデータ収集を行っており、洋ナシ生産者のニーズに応じたセンシングデータの可視化システムの構築の検討も行っております。今後は、これまで蓄積してきたデータ解析を行い、ユーザのニーズの予測をシステムの制御へ反映できる仕組みの検討を行っていく予定です。

発表者：山崎達也（新潟大学大学院自然科学研究科 教授）

題目：Field Environment Sensing and Modeling for Pears towards Precision Agriculture

